

75歳以上医療費窓口負担2割化に反対する請願署名

2019年12月19日に発表された政府の全世代型社会保障検討会議中間報告で、現在「原則1割」の75歳以上の高齢者の医療費窓口負担について「負担能力に応じたものへと改革していく」と強調。「一定所得以上」の人を対象とした「2割負担」を導入することを盛り込みました。今後、「団塊の世代」が75歳以上になり始める2022年までに実施できるよう法制上の措置を講じるとしています。

全世代型社会保障検討会議中間報告は、“社会保障のためだ”と消費税を10%にまで引き上げながら新たな負担を高齢者に押し付ける内容です。高齢者の生活は年金だけでは生活出来ない状況です。所得の8割は公的年金が占め、約7割の世帯は公的年金のみで生活しています。その年金も減らされ続けて1996年の210万円から2016年には180万円まで15%減少しています。さらに、貧困の高齢化で、生活保護を受給している高齢者世帯は、安倍政権下で1.2倍以上に増えています。これ以上の負担増は大幅な受診抑制を引き起こし、高齢者の生存権が脅かされることとなります。

「負担能力に応じたものへと改革していく」というのなら、税や社会保険料での徹底こそ求められるべきです。高額所得者からの保険料を能力に応じた負担とすべきです。さらに、国の社会保険財源確保を消費税と「働き方」改革でなく、軍事費等の無駄を省くこと、早期発見、早期治療や薬価の見直し、大企業や富裕層への課税強化で公費財源を確保すべきです。

後期高齢者の医療費窓口負担2割化は、高齢者の生活と健康を守る上で大きな影響を及ぼします。

ついては以下請願します。

《請願事項》

1. 75歳以上の医療費の窓口負担を2割にしないでください

<取り扱い団体>

氏名	住所

<呼びかけ団体>

中央社会保障推進協議会

東京都台東区入谷 1-9-5-5F 03-5808-5344

全日本年金者組合

東京都豊島区南大塚 1-60-20 03-5978-2751

日本高齢期運動連絡会

東京都中野区中央 5-48-5-504 03-3384-6654

